

今日の説教のポイント<ヨハネによる福音書 15 章 18~16 章 15 節>

①正しく、深く、聖書の恵みを捉えることの大切さ。

オウム事件から 20 年経ちましたがいまだ影響力を持つようです。今日の箇所イエス様が語られたようなことも巧みに用いた問題の教祖。その違いは何か、今日の箇所から考えたいと思います。

②神様は独り子をお与えになったほどに、世を愛された！

ヨハネ福音書では、キリストを信じずに迫害する人々を指す言葉として「世」が用いられています(15:18、1:10)。しかしそれは同時に、神様がそれでもなお愛してやまないことを示す言葉でもあります、「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。~神が御子を遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである」

(3:16~17)。全ての人が救いに与ること、それが神様の願いなのです！

③自らが十字架の死につかれること、それが聖書の救い主！

問題の教祖は、「罪から救われるために必要な一過程」と巧みに語って人をポア(殺害)させました。イエス様も「罪・義・裁き」について語っておられます(16:8~11)。しかし、決定的な違いは、私たちの救いのためにイエス様自身が十字架の死につかれたのであって、その人が救われるために殺していいなどといった言動は一切ありません(逆に、止められたことはある ルカ 9:55)。

④己が高みに達して成る救いではなく、主の業に気づかされる救い！

私たちが救われる、あるいは、罪に気づかされて神様に立ち帰るのも、私たちが苦行をなしたり定型句をひたすら唱えて恍惚状態になり高みに達するといったことを、イエス様は一切語られていません。イエス様が去られた後に「弁護者(聖霊)」が父から与えられて、イエス・キリストによって(私たちが何かし通すことによってではない!)罪の赦しが与えられることが分かるようになるから、とされているのです(15:26, 16:4 以下)。

⑤私たちの証しの業は神様を礼拝し、神様を見上げて生きること！

イエス様から託されたことは、私たち自身がこの主を証しすることです(15:27)。それは、互いに愛し合うこと(15:17)、すなわち、そのような姿で生きて礼拝して神様を証していくことです。主の群れ(教会)はその使命の故に建てられたのですし、そうであるからこそ、歴史の中で広がり続けて来たのです！ 私たちもその中に加えられたのです！